

# 第5回 輪島市復興まちづくり計画検討委員会

## 議 事 録

日 時：令和6年10月28日(月)13時30分～16時30分

場 所：輪島消防署 2階大会議室

出席者：別紙名簿の通り

### ■議事概要

#### 1. 開会

#### 2. 挨拶

(山本 利治 企画振興部長)

本日はお忙しいところ検討委員会にご出席いただき感謝申し上げます。

発災より10ヶ月が経とうとしている。その間、全国の方々から多くの支援をいただきながら少しずつ復興へと進んできたが、9月21日の豪雨により大きな被害が出た。11名の輪島市民がお亡くなりになった。この場を借りてご冥福をお祈りする。この水害で市内の住宅で床上、床下浸水が生じ、全国から来た多くのボランティアに手伝いをしてもらっている。水害で被災した方々へ、住む場所の確保として、石川県に応急仮設住宅を要請しており、輪島市内で2カ所着工している。

まちづくり復興計画については2回目のわじまみらいトーク、住民懇談会を行い、多くの市民の意見を反映したところである。

本日は、輪島高校、門前高校の生徒、輪島商工会議所から取組やビジョンを発表いただけるとのことである。本日も様々な報告があるため、皆様より忌憚のないご意見を頂きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

冒頭に少しお時間をいただいて、今後のまちづくり計画検討委員会の日程について、ご説明申し上げます。

去る9月21日に発生した令和6年奥能登豪雨により、概ねの見通しが立っていた震災からの応急的な復旧が、残念ながら2歩も3歩も後退しているところである。この豪雨災害を受けて、本市の復興まちづくり計画につきましても、策定のスケジュールを見直すかどうかにあつての検討を行ってきたが、地震であっても豪雨であっても市内が壊滅的な状態であることには変わりないということで、住まい、生業、インフラの復旧・復興など、現在全力で

取り組んでいる復旧作業と並行して、これまでにお示ししているスケジュールの通り、年内に計画の案を取りまとめ、本部に提言を行うことにより、本市が復興に向けた取組に速やかに着手できる体制を整えたいと考えている。

なお、この度の豪雨災害については、海岸線の隆起、大型土嚢による河川護岸の応急復旧、倒木の河川への流入などに伴い、河川の断面が通常の状態を保てなかったことによる浸水被害や、亀裂の入った山腹に大量の雨水が流入したことによる土砂災害など、多くの被害が豪雨のみならず能登半島地震に起因している旨の指摘がなされているが、詳細な検証については、今後、専門の分野において時間をかけて行われるものと考えている。

いずれにいたしましても、委員の皆様におかれては、1回目の会議にお示しした通り、本委員会の目的や位置付けが復旧作業と並行した復興まちづくり計画案の策定であることに、何卒ご理解を賜りたい。

とは言いながらも、豪雨災害を受けて豪雨の記載が何も計画に反映されないということはなく、この後の「(3)復興まちづくり計画の検討について」の中で、内容についてご説明申し上げたい。

### 3. 会議

#### (1) 報告事項（民間団体等の活動報告）

##### ○輪島高校

※輪島高校生より説明

姥浦委員長) 今ほどの生徒の発表に対して意見、感想をお願いしたい。

山下委員) 高校生の立場でよく考えていると思う。朝市について発表の冒頭で地元の方が使っていないということを指摘されていたが、震災前はマリントウンから朝市まで歩いて行ける構造であったが、そこに魅力を感じたりはしなかったか。もし、魅力を感じていないようであれば、どこにどのように感じているか。また、県にグラウンドを使えるようにするために協力を仰いだとのことだが、クラウドファンディングに対して校長先生は何か意見を言っていないのか。

輪島高校) クラウドファンディングについては、先生などと校内で話し合ったが、その場に校長先生がいたかどうかはわからない。具体的な話にならず、そのまま流れてしまった次第である。

輪島高校) 現在、マリントウンには仮設住宅が建設され、再度サッカーコートやバスケットコートを整備するとお金がかかるが、朝市の復興に合わせてまとめて整備することで整備コストが下がるなどのメリットがあると感じている。

川口委員) 発表ありがとうございます。朝市で多世代交流型のビジョンを提案していただいたが、高校生が朝市に行くことはこれまであったか。お店だけでなく、勉強ができたりなどのスペースがあればよいのかと思うがいかがか。

輪島高校) ほぼ行ったことはない。朝市を歩いても、輪島のものが売っていない。金沢や珠洲、能登町のものを輪島の朝市で売ることが本当によいのか。また、歩いても買うものがない。

川口委員) これから多世代の交流を考えるにあたって、公園や交流スペースなどがあれば魅力を感じるか。

輪島高校) そうである。

川口委員) 輪島高校のグラウンド使用について高校生にこのような行動をしてもらうことになってしまい、大人の責任だと申し訳なく感じている。2学期までに整備することになっていたが、輪島市では高校の復旧スケジュールを把握しているか。しているのであれば高校生とも共有すべきなのではないか。

事務局) 県立高校のため、市で復旧状況を把握しきれてはいない。申し訳ない。県教育委員会から回答いただけるように相談したい。

川口委員) 高校生の頑張りに応えられるよう、大人たちが頑張るべきであり、県教育委員会にも相談していただきたい。

姥浦委員長) 素晴らしい発表をいただきお礼申し上げます。朝市の発表については宮下公園などいろいろな事例を勉強しており、グラウンド活用については要望ではなく自分たちで行動したところがよい。その姿勢を忘れないように続けてほしい。大人としても協力したい。

## ○門前高校

※門前高校生より説明

姥浦委員長) 委員の皆さまから意見、感想をお願いしたい。

井田委員) ろうそくは總持寺の廃棄品とのことだが、廃棄品があると気が付いたきっかけはあるのか。

門前高校) きっかけは高校の先生が、お供えの際にすべて使い切ることがあるのか疑問に感じ、總持寺に伺った際に余りがあることを知った。1本がとても大きく、有効活用したいと思い、取り組むことにした。

井田委員) お寺にろうそくが余っていることに気づくことがよく、資源が回ることで経済も回るということで SDGs の話にもつながるので素晴らしい取り組みだと思う。

森 委員) 私も門前に住んでいるが、今後、このキャンドルを購入できる機会はあるか。

門前高校) 今後の活動については、私たちが現在3年生のため一旦終了するが、後輩に引き継ぐことができればよいと考えている。購入については、門前商店街のわらじ屋、沢田陶器店では、販売してもらっている。

山下委員) 總持寺で廃棄されるろうそくを使ってキャンドルを作っているが、ろうそくとキャンドルの違いは分かるか。ろうそくをあえてキャンドルにした理由を伺いたい。

門前高校) ろうそくとして売るより、別のものに変えた方が注目されると思った。リラックス効果などのイメージがあるキャンドルとして売るのが、若者などにも興味を引けるのではないかと考え、ろうそくとは別のものとして製作した。

山下委員) 調べると、ろうそくとキャンドルには原材料などで違いがあるようではあるが気にする必要はなく、よい取組のため頑張ってもらいたい。キャンドルの販売は門前高校として行ったのか、それとも、地元の店舗などに依頼していたのかどちらか。金沢商業高校では株式会社を設立して生徒が経営している事例がある。会社として販売するのであれば、後輩にも引き継ぎやすいだろう。会社にするかは難しい問題だが、今後の活動に繋げられるよう引き続き議論しておくことも考えられる。売れたお金についてもどう扱ったのか。

門前高校) 売れたお金は多少ではあるが、總持寺に寄付した。

姥浦委員長) 地域の事をとても分かっているからこそできる取組であり、さらに付加価値をつけるとより販売ができると思う。例えば、能登ヒバのエキスを使ったアロマをつけるとよりよく、總持寺や門前にしかないものが作れるのではないか。SDGsにつながるかもしれない。非常によい取組を紹介いただき感謝申し上げます。

#### ○輪島市災害復興対策本部（輪島港復旧・復興プラン検討会）

※輪島市より説明

姥浦委員長) 質問、意見があれば挙手いただきたい。

※特になし

#### ○輪島商工会議所（輪島市の産業復興ビジョン）

※輪島商工会議所より説明

姥浦委員長) 報告いただいた部分についてご質問があればお願いしたい。

山下委員) 「2035年頃には一人あたりGRPを700万円にすることを目標とします。」とあるが、震災前はどの程度のGRPで、これまでの傾向は上昇もしくは下降のどちらであったか教えてほしい。

輪島商工会議所) 国・県からの補助金を含めると1,102億円のお金が分配されており、補助金があれば700万円は難しいが、目標として記載している。

山下委員) 過去の数値はないのか。

輪島商工会議所) 過去の数値は現在の資料には掲載されていないが、数値としてはある。  
山下委員) 震災前は国や県の補助がなければ700万とすることは難しい状況であったということか。

輪島商工会議所) その通り。実際には350万弱だと思われる。

姥浦委員長) 補助金をいれて大体500万円ということかと思う。

川口委員) 輪島市復興まちづくり協議会はどのような方で構成されるものか。

輪島商工会議所) 当会議所の会員以外にもメンバーを入れて開催したい。必要に応じて連携しながら進めていきたい。

川口委員) 復興まちづくり計画との整合はどうなるのか。

輪島商工会議所) 復興まちづくり計画検討委員会の方で認めていただければ、協議会を設置して活動を進めていくことになるだろう。

## (2) 輪島市の産業復興ビジョンに関する提案

姥浦委員長) 続いて事務局から説明を願う。

事務局) 産業復興ビジョンを輪島市に提案させてもらいたいとのことだが、委員会として受領してもよいか。

姥浦委員長) ただいま事務局から説明があった輪島市の産業復興ビジョンの受領について、賛成できる場合は挙手をお願いしたい。

※一同挙手

※久岡会頭より、姥浦委員長に提案書を提出

姥浦委員長) 5分間の休憩とする。報道各社の傍聴はここまでとし、ご退出願う。

## (3) 復興まちづくり計画の検討について

### ○基本構想について

※事務局より説明

姥浦委員長) 基本構想の修正部分について意見・質問はあるか。

基本的に大きな方針に変更はなく、豪雨災害を取り入れたこと、被害の状況に応じて基本計画に合った内容を基本構想でも取り上げ、重点的に取り扱う姿勢を示すということである。

姥浦委員長) スケジュールについて、豪雨災害を受けても計画の策定を遅らせることなく、復興を早めるためにも当初の予定通りとの事務局案であるが、いかがか。

山下委員) 大きな文言の変化はないと解釈した。抽象的な表現となるが魂が入っているのか疑問である。具体的なことまで見据えて書かれているのか、疑問に思うところであり、それを考えると急ぐことが正しいのかどうか。例えば、今回の豪雨災害について東部であればかなりの被害状況であり、地震の時よりもひどい。これらの被害を踏まえたスケジュールが必要ではないのか。将来都市構造について本当にこれでよいのか、じっくりと考える必要があるのではないか。豪雨は地震による影響で大きな被害になったのではないか。じっくりと考えるためにも、住宅の再建やインフラの整備など、焦る必要があるのか、スケジュールを判断された意図を説明いただきたい。

事務局) 復旧が終わってから速やかに復興につなげていきたい、このスケジュールを示しているが、魂の有無については、ここに位置付けている事業が具体的になれば変わって見えてくると思われる。復興まちづくり計画については2つの側面があり、被災者の復旧、復興に向けたもの、そして、行政側として復興に向けた事業を進めていくにあたり国や県から支援をいただく際、これから創設されるだろう制度などに関わるものである。令和7年度から事業化するためにも、しっかりと位置付けていきたい。

山下委員) 小学校の統合方針が報道されている。復興まちづくり計画の検討中に小学校の統廃合のような計画が並行して検討されていることもあるため、上位計画となる復興まちづくり計画については、もう少しゆっくり根本を詰めて計画策定ができないかと思う。

事務局) 学校の話は新聞報道の内容だと思うが、まだ決まったわけではない。ちょうど本日、検討会において市に対する答申内容が決まると伺っている。答申を受けて市がどのように考えるか検討する。本計画は復興の教科書のようなものであり、それに基づいて、農業やインフラなどの具体論が決まってくる。事務局としては、教科書にあたるものを先に作っておきたい。

山下委員) 教科書を先に作るというのはよくわかるが、ここから具体的なものをどのように展開していくのかは疑問である。議事録や資料を見た市民からは、市民が置いて行かれている感じがするとの意見も聞いている。住民懇談会を実施しているところだが、第1回は復興まちづくり計画ではなく、個別具体的な復旧の話にとどまっており、もう少し煮詰める必要があるのかと感じている。復興を考えると、復興まちづくり計画ができれば委員会がお役御免ということではないと思うが、今後の組織づくりも含めてどのように考えているのか。

事務局) 今回の計画策定で終わりではなく、検証をしながら見直しを随時行っていく予定であり、軌道修正のための検討会を引き続き維持していきたいと考えている。

森 委員) この委員会の最後が12月と決まっており、委員としてこの計画を教科書として具体論を作っていくということであるが、その後、達成の判断はどのようにしていくのか。

事務局) 検討委員会を継続して、委員の皆様に、評価・検証いただいて、軌道修正を実施していきたいと考えている。

姥浦委員長) 今ほどの意見を踏まえ、スケジュールについてはどうするか。

事務局) 事務局としてはこのままのスケジュールでいきたいと考えている。

姥浦委員長) 山下委員としてはしっかりと考えていくべきと考えるのか、それともチェック期間があればそのまま進めてよいと思うか。

山下委員) この資料はすべて公開することになると思うが、例えば将来都市構造案については、批判をされないように現状と何も変わっていない内容に見える。注釈を読むと、住みたければ住めばよいが除雪などはしないとも読め、集約したいという方向性も一応は感じるころだが、メッセージ性が曖昧。スケジュールについては、12月までに検討が間に合うのであればよいが、そうならないのではないかと感じている。

姥浦委員長) 一旦このスケジュールで進めるが、議論が足りなければ延長し、会議を増やすということでよいか。

山下委員) それで問題ない。

事務局) 問題ない。

## ○都市構造図について

### ※事務局より説明

姥浦委員長) 将来都市構造の修正部分について意見・質問はあるか。

染谷代理) p. 4の広域交流軸について、見た目の話であるが、輪島港から東北方面、関西方面につながる矢印としてはどうか。

事務局) 広域交流軸のすべてにおいてのご指摘か。

染谷代理) 海側については東北方面、関西方面へ矢印を延ばすことでより広域交流ということがイメージしやすいのではないかと。双方向に延びる矢印などを検討頂きたい。

山下委員) 都市構造図を公開するかはさておき、各ゾーンの範囲を具体的にイメージできているのか。例えば、町野であればどのあたりまでが市街地ゾーン、集落ゾーン、自然環境ゾーンと考えているのか。また、p. 2に市民サービスの見直しとあるが、具体的にどのようなことを考えているのか。

事務局) 具体的なエリアについては、市街地であれば輪島バイパスから海側になる。町野地区についてはこれをどう位置付けるかは明確に決めているわけではないが、町野支所や小中学校、JA町野、旧石川サンケン工場周辺程度を考えている。しかし、あくまで想定であり地域の皆さんと相談して考えていく必要がある。門前についても同様であ

るが、總持寺周辺からどこまで広げていくか、事業の具体化と合わせて検討していくことになる。

事務局) 市民サービスについて、集約したところは手厚くなり、集約で残った部分においては除雪やゴミの収集、災害の復旧などにおいて再検討していくこととなる。

山下委員) あくまでも現在は計画段階のため詳細は示していないが、取組を具体化する際に、市民の声をきいて、門前や町野などの各地域それぞれで合意形成を取りながら、線引きや各集落のあり方を詰めていくというイメージでよいか。

事務局) ご指摘のとおりである。なお、山下委員からのご指摘の通り都市構造の図1枚で全てが決まるわけではない。今後は、それぞれの集落から相談が出てくるため、この将来都市構造の通りではいけない集落も出てくるかもしれないが、その際は適切に事務局で対応したい。

姥浦委員長) その他、意見はないか。

※意見なし。

姥浦委員長) 都市構造図については、この案を基本に進めていってほしい。

## ○基本計画(案)について

※事務局より説明

姥浦委員長) ただ今の説明について、意見・質問はあるか。

大下委員) p.4の「心と体のケアの推進」について、地域で声掛けや見守りに取り組んでいる中で感じた点として、いろいろなニーズを抱えながら暮らしている方たちを健康相談や健康教室などだけではフォローできないので、専門機関への相談ができる体制づくりということも計画に盛り込んでいただきたい。

事務局) 専門機関と連携しながら、というニュアンスを追加する。

藤井委員) 産業関連について、商工会議所からの提案を受け入れて変更されるかもしれないが、いくつか指摘させて頂きたい。

p.17の「輪島塗の再興」について、特に市民や業者の取り組みという部分で、再興にとどまらず、新たなチャレンジを盛り立てていく視点があってもよいだろう。

p.18の「朝市通りや商店街の復興」について、それぞれの商店街で商店街がどうあるべきか各自の検討を促すような視点があればよい。

p.19の「観光産業の復興」について、まち全体としての観光客の受け入れとして、市民の皆様におもてなしの心やコーディネーター育成の支援が必要であろう。行政・市民・事業者のどちらがやるべきか整理が必要であるが、ここにしかない資源の発信をどう考えていくのか検討してほしい。



p. 26の「漆器事業者の復旧支援」にて、整備された仮設工房の再開が記載されているが、併せて積極的な後継者の育成に取り組んではいかがか。また、中小企業の経営支援という点では、事業者として、事業活動の見直しを加えてはどうか。また、労働人口が減っていくことを考えていると、省力化・省人化についても加えてはどうか。

p. 27の「中小企業の持続的な経営支援」の就労支援について、p. 12にも雇用についての記述があるので再掲というかたちになるが、地域での雇用をしっかりと支援していくということについて、特に市民、事業者への取り組みとして、もう少し示しておけばよいと思う。

事務局) p. 17の「輪島塗の再興」については、海外やインバウンドなどを視野にいれた文言を追加検討しており、今のご指摘も参考にしていきたい。

p. 18の「朝市通りや商店街の復興」に関しては、少し集約をしたほうがよいのかも含めて、未来の姿を検討する旨を追加する。

p. 19の「観光産業の復興」については、既存で市外に魅力発信する「あかり人」の活動を強化し、コーディネーターの育成や、官民で連携して魅力を高める仕組みづくりという内容も入れていきたい。漆器の後継者育成については、最重要課題であり、この中にも盛り込んでいきたい。

p. 27の「中小企業の持続的な経営支援」については、事業活動の見直しなど、今後とも会議所、商工会と連携して支援していきたいので、それについても触れたい。また、経営支援について、もう少し具体的に支援策を盛り込んでいきたい。

森 委員) p. 16の「子育て支援のための環境整備・こどもの遊び場やスポーツの場の確保」に保護者懇談会・説明会の開催などの記載が追加されたが、門前東小学校グラウンドにおける仮設住宅の建設について、住民が知らないまま建設が進み、報道でそのことを知った経緯があった。母親の立場からも、そのように報道から知るということはなくしてほしく、保護者に向けての説明会などを行ってほしい。

p. 10の「学校・児童福祉施設等の復旧・整備」の小学校の統合について、事務局からも決定していないとのことだが、地域一体となっており方を考えるというのは、輪島全体のことなのか、輪島、門前、町野の各地区単位でのことなのか。もう少し詳しく書くか、具体的にイメージできるように、都会や他地域からの児童の受け入れだけではなく、輪島市内で3拠点の小学校・児童が連携していけるということも書かれていると安心できる。

p. 11の「子どもの遊び場やスポーツの場の確保」について、追加で学びの場についても記載があるとよい。輪島には塾がないので、学力の差が、今後、出てくること

を懸念しているので、学力についても具体的な取組のところに何らかの記載が出来ればよい。

事務局) p.16の「子育て支援のための環境整備・こどもの遊び場やスポーツの場の確保」に関して情報が行き届かないという点については、体制づくりが大切である。p.10の「学校・児童福祉施設等の復旧・整備」に関しては、オール輪島という視点で地域一体になりながら教育環境や施設の適当な配置を考えていくところである。狭い意味での「地域一体」ではなく、輪島市全体でという意味。

p.11の「こどもの遊び場やスポーツの場の確保」については、子供の遊び場やスポーツの場だけでなく学びの場の確保についても追記をしていきたい。上の方に記載している「教育環境の確保」という部分に含めてはいるが、「学びの場」ということも追記できるか検討しつつ、修正していく。

猿谷委員) ライドシェアというワードがあるが、この場には交通事業者がいないため、導入に向けて地域公共交通会議で議論される予定かどうか教えてほしい。交通事業者だけでなく、朝市など、この場にはいない業界の方の意見をどのように取り入れているのかが気になる。

p.19の「観光産業の復興」に長期滞在の観光の視点があり、宿の復興の面では厳しい状況であると思うが、担い手の意見をどのように捉えていくのか。

p.18の商店の部分についても、朝市や門前の話は聞かすが、今回ある意味では一番被害のあった町野地区でスーパーが一軒しかない状況などをどうフォローされているのか確認したい。

p.39の「美しいまちなみの再建」にて能登の瓦、景観を守っていくという点については、「新しいものを作ったので見に来てください」ということではなく、被災はしたが昔から残っている風景を見たいという来訪者の視点もあり得る。インバウンドにおいても大切な視点だと思われるが、解体が進む中で、今後の建て替わる建物によっては魅力ある街並みではなくなる。商工会議所の提案も観光を重視しており、黒島地区など具体的な地区を掲げて残していくという部分についてももう少し注意が必要であろう。都市構造も踏まえ、図として輪島市街地、門前、町野それぞれで何を残してどうするのか、といった記載があってもよいだろう。

事務局) p.9の「持続可能な公共交通の確保」について、ライドシェア導入にあたっては公共交通会議や市民の意向を確認しながら進めていきたいと考えている。

p.19の「観光産業の復興」の宿泊施設や商店の今後について、現時点では具体的な内容を掲げてはいないが、並行して具体策を見出していくと考えている。ご指摘の視点も含められるよう変更を検討したい。

p.39の「美しいまちなみの再建」について、具体的な地名を上げてはどうかということであるが、ここでは市全体の方針を記載している。一方、p.20の「観光施設・

名所・自然景観等の再整備」では、黒島の伝建地区や大沢・上大沢の間垣などの記載をしており、そこで読んでいただきたい。

猿谷委員) 舳倉島や七ツ島などの扱いはどうか。石川県の観光ではアクティビティが弱いと指摘した。かつては釣りの大会もあったが、釣りのコンテンツについてはどう考えるか。

事務局) 舳倉島はかなりの被害を受けて、その中で復興を進めていくこととなる。釣りは重要な観光要素の一つであり、考えていきたい。

染谷代理) p. 38の「宅地の復旧」の表現について、「公共施設の宅地の液状化対策」とあるが、正しくは「公共施設と宅地の一体的な液状化対策」という表現になるのではないか。表現が適正か確認してほしい。

事務局) 「公共施設の宅地」という表現はこちらの誤りで、申し訳ない。「公共施設の液状化対策を実施する」というように修正したい。「公共施設と宅地を一体的に」という表現は難しいかと思う。「公共施設の液状化対策を実施する」ということと、一方で市民、事業者において行政支援を受けながら宅地の液状化対策を実施するというところで修正したい。

山崎委員) 全体的に気になった点であるが、ロードマップの実施主体の部分は「市民や事業者等」という記述で統一されているが、今後、具体的な事業者名や地域を記載していくのか、このままなのか。このままであればこの記載は必要なのか。

事務局) 全ての事業について市民・事業者が関わっていく、または主体となっていくという文言となっているため、書きぶりについては工夫する。例えば、市民が関わるなら○をつけるなど、書き方の工夫を検討したい。

山崎委員) 漆器組合など具体のところがあれば記載して、まだ決まっていないところは未定ということが見えるようにしてあるといい。市民はいつ誰が何をしてくれるのかが見えない部分があり、不安に思っているので、少しでも当てがあるのであれば記載していただきたい。

事務局) 具体的に分かる組織等については、記載できるかなど検討したい。

川口委員) p. 12の「若者の就職・転職の支援」について、UターンだけではなくIターンも含めて検討してほしい。また、2拠点居住の支援も含めてほしい。

事務局) 2拠点居住については記載していないので、追記を検討したい。

川口委員) 宿泊を補助する制度なども検討してほしい。

川口委員) 女性が働ける環境整備も労働力確保のために重要であると思う。具体的な施策は思い浮かばないが、サポートが必要であると思う。子育て環境向上のため、児童クラブ・高等教育の無償化などを検討いただければと思う。

事務局) Iターンについては、よそから人を呼び込むことについては企業誘致も含めて求めていきたい。具体的な記載をしていきたい。子育て環境の預り所の無償化などの話であ

ったかと思うが、無償化できるかは現時点では記載できないので、現在の記載で背景を読み取ってほしいと思う。

川口委員) 学校の適正配置に関連して、通学方法の確保ということも必要。現時点でも工事車両の通行が激しく危険だと感じている。早急に安全安心な通学方法の確保について検討してほしい。

事務局) 交通関係については p. 9 の「持続可能な公共交通の確保」についてスクールバスや相乗りバス、のらんけ+なども含めて「安心して暮らせるまちづくりを支える交通ネットワークを構築する」という記述の中に通学環境も含まれているという理解でお願いしたい。

井田委員) 表記方法の意見として、基本計画にも重点プロジェクトの番号を入れた方がよいと思う。

事務局) 番号をつけ、修正したい。

山下委員) 将来都市構造図で市街地ゾーンとして示された範囲について、輪島市街地では朝市や輪島港など、門前では總持寺や商店街などがイメージできるが、町野では中心市街地としてのイメージできる部分がなく、どのような取り組みを想定しているのか。

事務局) 町野だと平家の里があるが、震災後の復興として平家の里が打ち出せるのかと言われると、地域の状況を踏まえると難しい状況である。都市構造として3地区は残っていくべきだが、重点プロジェクトでは各地域にトピックを当てはめて作ったものではない点はご了承いただきたい。今後、打ち出せていけるものは位置付けていきたい。また、思いつくものがないなら、生み出していけるといい。

山下委員) その点は理解しているが、復興まちづくり計画が、もとよりもっと新・輪島を基本理念とした点を踏まえる必要がある。公開されれば市民も見ると、拠点の位置づけがある中で、具体的な取組がないというメッセージを打ち出してよいのか。せめて市街地・拠点と位置付けた町野へのメッセージはないか。計画では出せないのであれば、個別具体のもので何らかのことを示してほしい。

p. 19 の「観光産業の復興」、p. 23 の「農林水産業の再建・発展に向けた支援」の千枚田の記載について、観光産業で扱いつつも農業のシンボルとして記載がある点に違和感がある。白米千枚田は農林水産課ではなく観光課が主導していったはずだが、ここで農林水産のところに記載されていることの意図は何か。

事務局) p. 20 の「観光施設・名所・自然景観等の再整備」に東部地区の曾々木海岸や金蔵など地域の特徴を具体的に盛り込むことが可能か、検討したい。千枚田を復興のシンボルとしている点について、世界農業遺産になった以降については認知度も高いものなので利用している。千枚田が全てということではないので、理解いただきたい。

山下委員) 観光の観点で白米千枚田をシンボルにすること自体はよい。ただ、p. 23 の「農林水産業の再建・発展に向けた支援」に農林水産業の復興のシンボルとして従来農法で経

営的にも成り立ちにくい白米千枚田を取り上げることの違和感を指摘している。東部地区の個別具体がない点については、モデル地区を作ってシンボルにするとよいかと思う。メディアなどで取り上げづらいのかもしれないが、農業という点からは別の切り口がよいのではないか。

事務局) 持ち帰って、農林水産課で協議させていただく。

山下委員) p. 25 の「農林水産業の再建・発展に向けた支援」の記載については、平時から言われているような内容である。具体的な点は今後検討していくことだと思うが、計画を作成する際は今後の具体的な動きを、どの程度想定しているのか。

事務局) それぞれの分野において異なる表現になる。答えがあるものと網羅的に示している表現がある。農業分野においては具体的な事業がこの時点では想定できていないと思う。

山下委員) 想定できていないことを書いてどのように扱うのか。

事務局) 計画に位置付けておくことによって次の取組につなげるために記載している。抽象的な表現になってしまうことについては、次の取組が見えていない部分についても、やらなくてはいけないということで記載されているということで理解頂きたい。

山下委員) やらなければならないことは分かるが、具体的に何をすべきか分からない。しかし書かなくては計画を進められない、ということか。

事務局) p. 31 の「農林水産業の再建・発展に向けた支援」で、ロードマップと想定される事業が示されているが、これが現時点で考えている事業の案ということになる。

山下委員) 地震よりも震災後の豪雨災害により心が折れている農業者もいる。「やめた」という声もはっきりきいている。農業機械再取得等支援事業という記載だけでは農家は正直やっていられない。その上で担い手の維持、という書きぶりではなにも見えないので、何かよい表現がないか検討する必要がある。

事務局) どのような記載が具体的にできるのか、事業などまだ示せない可能性があるが、今後様々な支援策が創設される可能性もあり、農林部局と検討していきたい。

山下委員) p. 29 の「朝市通りの商店街の復興」のデジタル地域通貨の記載については、デジタル地域通貨の検討をしているということでよいか。

事務局) 具体的にはまだ検討会などは行っていないが、全国で導入地域が増えている中、輪島でも震災を期に新しいことを始めるということで、個人レベルで興味を持っている方がいるため、導入可否も含めて検討はしていきたいということで書いている。

山下委員) p. 25 の「農林水産業の再建・発展に向けた支援」について、「市民と地域一体として」の「で」は誤植ではないか。p. 39 の「狭あいな道路の解消や公園整備」の行政の取組について、各種災害における「レジリエンス」にも注記が必要ではない

か。「アイデンティティ」という言葉には後ろに括弧書きで「(独自性や自己認識)」と説明が加えてある。

大下委員) p.31の「災害の記録・記憶の伝承」の災害記録詩の漢字は「詩」ではなく「誌」が正しいのではないか。

事務局) 修正する。

川口委員) 取組内容について、目的と手法が混ざっているように感じる。ロードマップでいう「想定する事業」が手法なのだとすると、行政の取組の欄は「取組」ではなく「目的」とした方が理解しやすいのではないか。例えば p.12の「輪島の復興を～推進します」の文章は目的といっても差し支えない。具体的な手法には触れていない。しかし、下の方には「就職活動のサポート」など具体的なことが記載されている。そこから「想定する事業」に飛ぶとより詳細に記載されている。想定する事業までをシンプルに取組内容の横の部分につけるか、具体的な手法は含めない記載に留めるかにした方がいいのではないか。

姥浦委員長) 取組内容の記載のレベル感が異なる部分があるのではないかということか。

川口委員) 「行政の取組」と書かれていると具体的な手法なのかとってしまう。我々がどこまで決めればよいか分かりにくい。「想定する事業」は行政の考えることときいているので、そこまでは我々が意見できないということなのか。

事務局) 委員長からも意見があったが、具体的な記載があるものとないもので差があるとのことだが、具体的に定まっているものとそうでないものがあり、記載の統一が難しい点については、ご理解いただきたい。

川口委員) 目的設定に間違いがなければよいだろう。

姥浦委員長) ロードマップについて行政的には非常に重要であろうが、市民が理解しやすいかは別である。市民にとっては先が見えないことが課題であるとする、市民の関心は、住宅や朝市、門前・町野の各地域についてだと思われ、これらをもう少しわかりやすく示すことができないか、検討してほしい。公営住宅に入ることができる概ねの目途などが分かれば、そこだけでも読んでくれると思う。市民の関心、希望に合わせて、書き方は任せるので検討してほしい。

事務局) ご指摘の内容について、ロードマップでは分かりにくいということかと思うため、例えば基本計画の前段に、住まいの再建など、市民の関心が高い内容を、概ねの目途なども含めて明文化するということでよいか。

姥浦委員長) どちらでも構わないが、これだけでは市民に分かりづらいので、例えば3年後には公営住宅はこれだけでき、朝市がこうなるといったことが示され、各市民が読むことで復興の進み方や住宅や生活の再建などをイメージしやすくなるようにしてほしい。

事務局) 承知した。そのように対応する。

○今後のスケジュールについて

※事務局より説明

姥浦委員長) スケジュール案についてはどうか。こちらについては、よろしいか。

※意見なし

4. 閉会

【会議の様子】

